第４学年「てつがく」学習指導案

授業者　廣瀬　修也

２月２３日（金）２階プレイルーム　９：００～９：４０

１　題材名　１０歳のてつがく　～人と接すること～
２　考える価値内容　自己・他者
３　題材について
（１）本題材にかかわる子どもたちの履歴

昨年度，「てつがく」対話の経験を重ねた子どもたちは，４月当初から自然と友達の話に耳を傾ける習慣がついていた。「てつがく」の時間では，全員が輪になって椅子に座り，題材に対する思いや考えを話す。その発話の基には，主にこれまでの生活経験や学習経験がある。それらを互いに聴き合うことで，人間性・道徳性と思考力を育むことを目指してきた。「てつがく」で考える３つの価値内容例（「自己」「他者」「世界」）の内，本年度は主に「自己」「他者」に関わる内容について対話を重ねてきた。１学期は，互いの声に耳を傾けながらも，誰かの声に立ち止まることがなかったり，言葉の意味があやふやでも素通りしてしまったりしていた。話を聴いて理解しようとしているが，「自分のことを話したい！」という思いが強く，話がつながっていくことは難しかった。そこで，「てつがく」対話の中に入っている教師が，話がつながるような声かけを続けている内に，少しずつ友達の発言と絡めて自分の考えを述べるようになってきた。

「てつがく」対話を重ねる内に，一つの題材から派生した題材について話をつないでいくことが多くなってきた。教師から題材について投げかけたこともあるが，子どもが対話の途中で「そもそも○○ってどういうことか，みんなはどう考えているんですか？」という声を挙げたことをきっかけにして，次の題材を決めることもあった。

（２）「友達とは何か」から「人と接すること」へ

２学期のてつがくでは，「友達とは何か？」「友達には有効期限があるのか？」「人はなぜ好かれようとするのか？」という流れで話し合いを重ねてきた。これらは，２学期の始めにどんなテーマで話し合いたいかと子どもたちに問いかけ，決めたものである。主に，人と関わることについて考えたいという意見が多かった。その後は，「成長」「大人」というキーワードを基に対話を続けてきた。

てつがく対話を続けていく内に，子どもたちが「人との関わり」に関心をもっていることがわかってきた。１０歳になる４年生たちは，心も大きく変化してくる。その中で，人との関わりに悩みをもつ子も増えてきている。友達，家族など，子どもたちはほとんどの時間，誰かと接している。その接する中で，ことばには表せない思いを感じたり，自分がどう思われているのかが気になったりしている。「人との関わり」は，子どもたちにとって身近な，また切実な話題であり，思いや考えを言語化することで，より考えを深められるようにしていきたい。

４　学習指導計画（４時間目／全５時間）

（１）「人と接すること」に関する問いを考える。　（１時間）
（２）対話のための問いを精選する。問いに対する自分の考えをもつ。　（１時間）
（３）決まった問いについて話し合う。　（本時２／２時間）
（４）話し合いのふり返りをする。　（１時間）

５　本時について
（１）本時のねらい

「人と接すること」について，自分の具体的体験から考えをもち，伝えることができる。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　前時の話の流れと本時の問いを確認する。	・「人と接すること」についての対話を思い出しながら，今日の問いを確認する。
２　「人と接すること」について意見を交流する。	・相互指名で発言をつなげていく。 必要に応じて教師が話の流れを確認したり，問いを投げかけたりする。
３　本時の対話をふり返りながら，問いについての自分の考えや自分たちの対話についてのふり返りをワークシートに記入する。	・「今日の問いについて」「対話そのものについて」のふり返りを書く。